第3回蒲郡市生涯学習推進計画2022策定委員会　会議録

日時：令和３年１１月９日（火）
午後１４時００分～１６時１５分
場所：蒲郡市生命の海科学館メディアホール

■委員出席者（計１２名、敬称略・順不同）

中山弘之、足立泰敏、鈴木庸子、石川たづ子、小林浩子、松山照夫、新井麻利子、
大須賀めぐみ、中村達、稲吉初美、青木宣貴、伊藤健二

■事務局

【生涯学習課】嶋田部長、三浦課長、伴、早川、廣中
【（株）ジャパンインターナショナル総合研究所】竹内

■次第

（１）生涯学習課長あいさつ
（２）蒲郡市生涯学習推進計画２０２２　計画素案について
（３）蒲郡市生涯学習推進計画２０２２　指標・評価基準について
（４）今後の策定の流れ
（５）その他

■開会

（事務局）

それでは、定刻になりましたので始めさせていただきます。委員の皆様、本日はお忙し中ご出席いただきましてありがとうございます。また、社会教育審議会の委員の方は、１時から引き続きになりますがよろしくお願いします。また、策定支援業者の「株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所」竹内様にもご出席いただいております。

それではただいまより、「第３回蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定委員会」を開催します。初めに、蒲郡市生涯学習推進計画２０２２策定委員会設置要綱により、本日の出席者が定足数を満たしておりますことをご報告させていただきます。１１月２日にご自宅又はご勤務先にお送りしました本日の資料の確認と、お手数ですが資料４の差し替えがございますのでお願いします。本日の次第、出席者名簿、資料１から４までとなりますが、おそろいでしょうか。

＜配布資料の確認＞

よろしいでしょうか。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

（１）生涯学習課長あいさつ

（事務局）

はじめに、生涯学習課長の三浦よりあいさつをさせていただきます。

（三浦課長）

皆様、改めましてこんにちは。大変ご多用の中お集まりいただきましてありがとうございます。天気予報通り雨もあがり、いい午後を迎えられたと思います。今日は第３回ということで、資料も本格的に変わりましたが、我々事務局としては、実際まだまだ詰めていかなくてはいけないと感じており、物足りないことがあるかもしれませんが、忌憚のない意見を頂戴し、第４回に向けて仕上げていきたいと思っていますのでご協力をお願いします。あと、資料にはございませんが、今日は教育部長の嶋田も同席させていただきますので、どうぞよろしくお願いします。

（事務局）

本日も会議録音システムを使わせていただいております。ご意見の際は、マイクを通して発言をよろしくお願いいたします。

それでは、ここからの進行は議長の中山委員長にお願いしたいと思いますので、よろしくお願いします。

■議事

（２）蒲郡市生涯学習推進計画２０２２　計画素案について

（中山委員長）

中山です。委員の皆様とは（オンライン以外で）初めてお目にかかるということで、どうぞよろしくお願いいたします。忌憚のないご意見をいただいて、蒲郡の社会教育、生涯学習がより良いものになるような計画が立てられればと思っていますので、よろしくお願いいたします。

それでは、次第に基づいて進めていきたいと思います。次第２「生涯学習推進計画２０２２計画素案について」事務局から説明をお願いします。

＜資料に基づき事務局説明＞

（中山委員長）

それでは、途中ということで、第３章までご覧いただき、何か意見がありましたらお願いします。第１章から２章まで、これまでの経緯や生涯学習の課題を整理していただいて、２６ページあたりが重要になってくると思いますが、その後３章計画の基本的な考え方を整理していただいております。ここまででご意見、ご質問があればお願いいたします。

（委員）

２７ページ２行目のところですが、生涯学習というのは、意志的なものが大事ではないかと思うので、「学びは不可欠であり」の「学び」の前に、「自主的、自発的な学びは」と入れたほうが、より生涯学習が一人ひとり自分のものになるのではと思いました。あと、３行目のところの「地域」という言葉ですが、これより前のページでは、学校と地域団体で活かされると書

いてあったので、ここにも入れたほうがいいのではないかと思いました。
（事務局）
　そういう方向で進めていきたいと思います。
（委員）
　第３章の計画の基本的な理念、考え方で、表題が具体的な動きを表記しているのではないかと思います。要するに、最後は「学び」から「づくり」という流れであって、学習というと従来では個人で完結し、個人で積み上がっていくインプット型の学習スタイルですが、この計画にあるように「まちづくり」「家づくり」はアクションであり、外で学んだ知見を積み上げ行動を起こしていくというアウトプット型のかなりダイナミックな捉え方、考え方であることを考えた時、この「づくり」にどうつなげるか、この辺の施策も意識していくべきであろうと思います。質問ではなく感想です。
（中山委員長）
　感想としてのご意見ということですが、確かに重要なポイントだと思います。特に、第４章以降で説明があると思いますが、この辺りを事務局が補足し説明いただければと思います。それと一人目の委員からの意見がもう１点あったと思いますが、それについての回答はいかがでしょうか。
（事務局）
　３行目のところで、学校と地域と団体で活かされるということですが、地域はこの計画の中でもキーワードになってくると思います。団体というのも文章の流れとして検討し、入れていきたいと考えています。
（中山委員長）
　ありがとうございます。ご検討いただければと思います。補足として私の個人的な見解をお話すると、「自主的、自発的な学び」のところで、「自主的、自発的」と意味として重なる部分がある「主体的」という言葉があり、自ら行うということに加えて人が元々持っている力を発揮するというニュアンスがあります。例えば、「自主的、主体的な学び」「自発的、主体的な学び」という文言を検討してもいいのではと思いました。また、地域のところに団体や学校を入れるかということで、地域はかなり幅広い概念です。要するに、アジア、オセアニアという地球全体の中の一つの国をも越える単位を地域と言い、かなり広く包み込める言葉であるので、団体や学校は地域に含まれるのも可能かもしれない。そのあたりも含めて、事務局で検討していただけると良いのではと思いました。では、その他３章まで、ご意見、ご質問ある方はいらっしゃいますか。
（委員）
　今の話ですが、学校や団体を入れたほうがいいと思ったのは、４ページの「蒲郡市が目指す生涯学習」というところで「学校・地域・団体の連携による生涯学習活動の推進」という表現があるので、整合性があるほうがいいのではと思いました。また、学校教育はすごく大事であり、蒲郡という地域の中でということと、団体というのはそれぞれの大きなところや小さなところも、先ほどの地球上の地域ではない地域を指しているのではないか、それを入れるとよりいいのではと思いました。あと４ページのところにも「自発的な生涯学習の推進」とあるので、

先ほどのところに「主体的」を入れるのであれば、ここにも入れないといけないと思います。
(中山委員長)
補足していただいてありがとうございます。そうなると、４ページとの整合性を含めての検討になりますね。いずれにしても、整合性がとれているというのは大事なポイントだと思います。ご検討をよろしくお願いします。
その他、いかがでしょうか。
(委員)
何回もすみません、３ページのところに「生涯学習の領域」とありますが、よりみんなが自分事になるような書き方としたほうがよいと思います。参考として図を作ってみました。計画書は字が多いので、蒲郡市民全員に気軽に読んでほしいという思いや、一人ひとりが生涯学習を身近に感じるものを作りたいという思いがあり、「こんなことを考えているのか。じゃあ私もやってみよう」と思ってもらえるものを是非作りたいです。「SDGs とは？」「Society5.0 は何？」ということも蒲郡市民８万人全員がわかるように、図解を是非取り入れて欲しいと思いました。
(中山委員長)
ありがとうございます。これは３ページに限った話ではないということですね。今、印刷しているので皆さんに配られると思いますが、先ほど委員にご提案いただいた図は、いろいろな世代の人たちが仲良く集っているイラストの中に、吹き出しで生涯学習の領域がわかるようになっています。
(委員)
これはフリーイラストを活用しているので、このまま使ってもらっても大丈夫だと思います。
(中山委員長)
生涯学習の領域を理論的に説明するだけではなく、そのことによって家庭、地域、様々な世代が交流を深めて暮らしやすくなるように、という概念が伝わりやすいイラストになっています。そういうものを検討してはというご意見として、受け止めていただければと思います。何か事務局から回答等ありますか。
(事務局)
前回、委員から写真や図を掲載して、皆さんが手に取ってみたくなるような計画書にしてほしいとの意見をいただき、他市町のホームページなどいろいろと研究して、ジャパン総研さんと相談しています。よりわかりやすくなるよう、検討していきたいと思います。今の状態で訂正が１つございます。３ページの生涯学習の領域の右側の楕円は家庭教育になります。ここに関しては相談・検討していきたいと思います。
(中山委員長)
検討中ということです。図解、イラストとなるとセンスも問われ、大変な作業とは思いますが、生涯学習課でやれるだけのことをしていただけると思います。ほかはよろしいでしょうか。想像以上に活発な意見が出ていますが、時間の関係で次に進めてよろしいでしょうか。
では、４章以降の説明を事務局からよろしくお願いいたします。

＜資料に基づき事務局説明＞

（事務局）

ここまで、ご意見ありましたらお願いいたします。

（中山委員長）

ありがとうございます。基本方針１と２についての施策の説明に、ご質問やご意見があればよろしくお願いします。

（委員）

青年期、働き盛り世代の人たちが、生涯学習に対して消極的で忙しい事情はわかりますが、豊かな生活、生涯を考えた時に、仕事と学びを両立していくことが、より豊かな生活につながると思います。私の過去の反省として、仕事と家庭では家庭のウエイトがずっと下がっていたということがありますが、これからは少しずつ改善されていくだろうと思います。例えば、教員の世界において、小学校では部活動が課外活動として行われており、中学校もやがてはその方向に向かい、10年経てばかなり決定的になると思います。そういう時に生涯学習の立ち方が受け皿を作っていくことで、学校教育と生涯教育の連携になると思います。そういう意味で青年期の生涯教育、この年代層は兼業家や副業家などの問題が大きく広がり、スキルアップがますます迫られ、そうした場合に生涯学習が受け皿を作っていくことが必要だと思います。一番生涯学習に後ろ向きな世代のニーズを掘り起こしていくか、意識をどうやって向上させていくかは、国の経済活動とも連動する大きな問題と思います。

（中山委員長）

特に生涯学習に後ろ向きな世代である青年期、働いている人の学びのニーズの掘り起こしについて、事務局から回答などありますか。

（事務局）

守りではなく攻めで、と先ほどもお話をいただきました。成人期では、子育て、介護、家庭生活というところで、家庭が忙しいことがクローズアップされており、具体的施策としては、働く世代という観点で内容を記載してもいいのではと、そういう検討もしたいと思います。

（中山委員長）

青年期ということで、課外活動と部活動の関連でどうかというご意見については何かありますか。

（事務局）

先ほども別のところで、若者が興味ないものはスルーしてしまうため、ニーズの把握を掴む努力が必要であり、検討できればと思います。どうすれば、今若者が求めている生涯学習が掴めるのか、研究していくところと思っています。

（中山委員長）

ありがとうございます。学校に通う若い人の社会教育は、歴史的にも課題になり続けた部分があり、簡単に言うと戦前は進学率が低く、義務教育が小学校まででした。中学校に進学できない立場の青年を社会教育で補っていくという形で始まり、高校進学率が90％、大学進学率が50％を超える今となると、社会教育が食い込む余地がなくなるというのは、社会教育の専門の

立場から、ある意味必然とも言えます。実施するにしても休日、放課後となるため、若者の社会教育が薄くなるのはわかる気もしますが、今後を考えると、学校の肥大化により教員が担いきれず、働き方改革も言われていることから、逆に学校が抱え込みすぎる部分を、社会教育で受け取っていくこともあり得ると思います。ただ、生涯学習推進計画の立場から言うと、学校教育の部署との詰めが必要なため、計画として書き込みにくい部分があると思うが、そのあたりも念頭に置いてご検討いただければと思います。他にご意見、ご質問などあればよろしくお願いします。

（委員）

今の学校教育について知っていることを話すと、高校生が地域の環境について、学校の授業や部活動などで学び、広く発信する県の事業「あいちの未来クリエイト部」という活動が２０１７年度から実施されています。先日、県の図書館で発表会がありましたが、事業も部活動も生涯学習も全部関わるかたちでもできるのではないかと思いました。

（中山委員長）

ありがとうございます。「あいちの未来クリエイト部」は県レベルですが、成功事例をご紹介いただいき、事務局でもインターネット等で調べれば出てくると思います。

（委員）

まだ東三河のほうでは、そんなに広がっていません。

（中山委員長）

調べればもう少し、生涯学習推進計画で何が引き取れるのかイメージが掴めるかもしれません。私は愛知県教育委員会の地域運動部活動推進委員会の委員長でもあり、部活動でも情報提供できることがあるかもしれないので、よろしくお願いいたします。他はいかがでしょうか。

（委員）

３０ページの施策２の指標、第２ステージの高齢期というところで、例えば「高齢期において活力ある毎日を過ごせるよう、身近な場における」とあり、若い人なら車で外出やいろいろな人と会うこともできます。高齢者になると、まず家から出て、乳母車をひいてでも行けるような場所で人と出会って学ぶ機会、ということから始めないといけないと思います。いくつになっても勉強がしたい、地域で子どもを育てることをしたいという気持ちはあると思います。今はとなりのおじいちゃん、おばあちゃん達とふれあう機会がすごく減ってきて、身近なところで学べるところが公民館で終わってしまうと、血液に例えると静脈や毛細血管までいかないような気がします。公民館までできちんと指針が示されたら、各集会所など日常的に顔の見える範囲で、知っている人同士でも話ができる、そういう時にＧＣＳＬの力の活用や、眠っている宝を地域で活かすという取り組みも入れていただけると嬉しいです。

（中山委員長）

ありがとうございます。高齢者の学びに関連して、身近な場に学びの場を充実してほしいということです。公民館だけだと、通う方法がない方が出てくるということも踏まえ、例えば、集会所などをさらに生涯学習の場として活用できないかというご意見でした。これに関して、事務局から何かありますか。

（事務局）

前回２回目の時にも、委員から集会所を使ってはどうかというお話をいただいています。今はどこの地区も地域のつながりの希薄化や、子供会の活動なども縮小気味になっていて、そもそも会員にならないという家庭が増えています。そういうところから、学校を中心に地域づくりをしていこうという考えが国でも示されています。地域の人の自主的に集まる意識が希薄化しているため、学校を活用して地域の人に入ってきてもらい、そこからつながりを広めていく活動が今始まっています。蒲郡もこれからもっと広げていくところです。そこから地域の人たちのつながりがもっと強固になっていき、今は学校と公民館というような動きですが、そこで地域の人同士で「今度こういう事をしていこう」「集会所を使ってやろう」という話になればいいなと思います。市として推進していくとなると、土壌づくりからになると思うので、後半で地域づくりに関して出てきますが、そういった活動の後に、身近なところで皆が活躍できるようになればいいね、ということを記載しています。

（委員）

計画書の中で公民館のホームページ開設とありましたが、ホームページを開設して、中身を日々更新していくためのスキルアップ支援をしていただけるのでしょうか。数十年前にホームページを作ったことがあり、その時はほぼプログラミングに近いつくりでしたが、今はもっと簡単にできるのかと思います。しかし、蒲郡公民館の書記２人、主事が１人いますが、この人たちは６０代後半です。講習に行けば簡単にでき日々の更新も実施できるということですか。そういった支援がないと、そういう技術を持った人を募集しないといけないことになり、応募者がおそらくいないのではないかと思います。図書館のような立派なホームページの作成が簡単にできるのであれば進めていくべきだと思いますが、そこをお伺いしたいです。

（中山委員長）

今の質問は、委員全員に対しての投げかけか、事務局に対しての質問ですか。

（委員）

皆さんにお聞きしたいです。

（中山委員長）

では、アイデアを出していこうと思います。まず、事務局からありますか。

（事務局）

このホームページというところが事務局側でも引っかかっていまして、事務局としてはそれぞれの公民館にホームページを立ち上げてもらって、管理をしてもらうことは考えていないです。今の公民館のホームページは休館日すら載っていないぐらいの簡素なものです。そこをまず変えたほうがいいと思っています。それぞれの公民館の所在地やどういった施設かというところまで市が作り、そこから先の部分は今、主事さん達にお願いをして、公民館でタブレットを購入、使用してもらい、慣れてもらっているところです。タブレットを使って簡単にアップできるＳＮＳを覚えてもらい、市のホームページにリンクを貼り、「今日こんな講座があった」と出てくるというようなものが作れたらいいと思っています。それもすぐにという話ではなく、徐々に慣れてもらっている状態なので、そこが広まるといいということで、計画書に載せていますが、公民館のホームページを作るような感じにみえるため、変更したいと思います。

（中山委員長）

ホームページを充実し、そこにＳＮＳを絡ませていくというお話だったと思います。委員の皆様から何かありますか。

(委員)

ホームページもそうですが、例えば市の広報は、常会に入っていないとわかりません。新聞をとらない家庭がだいぶ増えてきたのでチラシも入らず、自分からホームページにアクセスしないと情報が届かない時代になりました。何をやっているかわからない施設のホームページに、わざわざアクセスはしません。ＳＮＳだと向こうから情報が勝手に流れてくるので、気になる情報は見るけれど、スルーしてしまうことも多いです。少し前ですが、選挙で「なぜ、選挙に行かないのか」と聞くと、「あることを知りませんでした」という人がいました。そういう人たちへ情報を流す工夫しないといけない時代になったなと思いました。図書館は Twitter の発信のほかに Instagram も始めました。イベントで「Twitter を見ました」という方や、「Twitter を見て、ホームページへアクセスしました」という方もいらっしゃいます。市公式の広報の Twitter には、ボートレースと生命の海科学館と危機管理課と図書館しか載っておらず、広報で一番大事な情報が載っていないと思っていました。少なくとも、公式な広報が情報発信してくれたらということと、「安心ひろめーる」というツールがあるのですが、登録していないと自分のところにメールが届かないということで、どうやって情報を届けるかというのが難しいと思います。若い人は好きなタレントや作家、漫画家をフォローして、その人が発信する情報からつながってくることが多いようなので、そういったところに少しでも引っかかるようにしないと、なかなか難しいなと思います。

(中山委員長)

ありがとうございます。攻撃的な部分での問題提起をしていただいたのではないかと思います。情報発信はとても難しく、流行っているインターネットやTwitter、Instagram、ホームページ、Facebook などを見ない人もいます。地域での配布物を見る人、見ない人もいるということで、絶対にこうすれば広まるというのは、難しい時代になっていると言えばその通りです。そうした中でどういうことが考えられるのかということです。行政として、情報を広げる手段をやり尽くすのは難しく、このことは大きな課題であり、なかなか答えは出ないと思いますが、全員に一律、均等に情報を届けるのが大事だと思います。地域で様々な活動をされている方、地域の若者、子供とつながりを持っている人、そういった人達にまで情報が届くようなことが考えられたらいいのではと思います。全員に生涯学習に関する情報が届かなくても、つながりを持つ人に情報が届くことで、誰かを誘うことがあるかもしれません。インターネットが大事と言われますが、最後は口コミ、人と人とのつながりなのです。人のつながりを活用しながら、影響力を持っている人への情報提供に、何かアイデアがあればと思います。委員から提案していただいた問題はとても大事で、これだけで１時間くらい議論したほうがよい課題ではありますが、時間的に押してきているので、今日はこのくらいでよろしいでしょうか。また機会がありましたら、意見交換できればと思います。

それでは続きまして、基本方針３以降に関しての説明を、事務局よりよろしくお願いいたします。

＜資料に基づき事務局説明＞

（中山委員長）

ありがとうございました。それでは、基本方針４までのところでご質問、ご意見ある方はお願いいたします。

（委員）

ボランティア連絡協議会は主に福祉系のボランティアが多く、歴史は３０年ほどですが高齢化もあり人数は減ってきていることもありますが、社会的認知が低いということを一番感じます。その日に来てすぐできるイベントボランティアとは違い、真面目に取り組んでも習得に時間がかかるボランティアや、意志をもって学ばないとできないボランティア活動があり、そういった方々が地道にやっているだけでは、とてももったいないと思います。若い人がスキルを増やし、楽しく学べるようなボランティア活動に結びつけられるよう、皆さんの役に立っている、身近にあるということがわかるような取り組みをしていただかないと、本当に重要なものが絶えてしまう気がしています。

（委員）

ボランティアセンターでいろいろな方にお世話になっています。いろいろなところでボランティア養成講座が実施され、社協が関わるのは福祉系だけですが、他にもいろいろなところで、いろいろな方と関わってていらっしゃると思います。豊橋市では、福祉系だけでなく、いろいろな課が担当する養成講座の情報をまとめた冊子を作成されていますが、蒲郡市でもそういったものがあればよいと思います。志を持った方がそれを見て関心を持ち、何かのきっかけで関わってもらえるようなものがあればいいと思います。福祉系のボランティア団体が中心となり、それ以外の団体も加入して活動していただいていますが、一緒に資質の向上や、意見交換できる会にしていけたらと思っています。いろいろなところでボランティアに携わる人が、関心を持って関われたらと思います。

（中山委員長）

ありがとうございました。お二人の委員からのご意見は、ボランティアの裾をどう広げるかということですね。豊橋市だといろいろな課が行っている養成講座が、市民にわかりやすく提供されるようになっているということですが、例えば、ボランティアの掘り起こし、地域への定着ということについて、さらに踏み込んだ施策は打てないかというご意見と受け止めました。この点に関して、事務局から何かありましたら、よろしくお願いいたします。

（事務局）

お二人の委員が言われていたところですが、４７ページの地域の連携体制の構築というところで、生涯学習がどう関わっていくかですが、庁内検討会議に福祉課や長寿課も関わっており、その連携も大事だと思っています。養成講座に関しては、福祉課で総合的な相談窓口ができるということで、そことは違うかもしれませんが、ボランティア活動の情報発信をどうしていくかというのと、その講座も縦割りではなく、豊橋市のように、生涯学習も抱えている講座がいろいろあり、それを集約して効率よく情報発信ができないかというところで、生涯学習が担う部分が大きいと思うので、頑張っていけたらと思います。

（委員）

縦割りを横のつながり、いろいろな課をまたいで、生涯学習と私たちのボランティア活動が楽しい学びとなるには、社会福祉協議会だけでも私たちボランティアだけでも無理ですし、長寿課でも福祉課でもそうです。いろいろな課が横につながり連携できると思います。そういったつながりでいけば、楽しい学びで福祉のことも学べるので、是非そうしていただきたいと思います。

（委員）

ボランティアとしてカンボジアに学校を立ち上げ、教育活動支援をやっていますが、去年の１月を最後にしばらく現地へ行けない状況にあります。単なるボランティアではなく、学びをそれなりにやっているのですが、非常に緩いものです。年寄りのおじいさん、おばあさんが多いため、ボランティア活動にプラスアルファを付けて、レクレーション的なものということです。緩い組織、緩い活動ということで、出席できる人はすべて役員で、情報はできるだけ共有するのが大原則で動きます。大事なことは、相手がどのような能力を持ち、学び、知見を積み上げているかをよく踏まえて頼むということで、例えば、うちで言うとカメラ専門、ドローン専門など、事業をやる人は教員ＯＢが多く、幼稚園や大学の先生なども一緒に活動していていろんな幅があります。１人で全部抱え込むのではなく、それぞれの人を頼りにすることが、逆に力になるのではと思います。メンバーが４５人で、加えてカンボジアへ現職の先生たちを連れていき、カンボジアの先生たちもこちらの学校で研修をするということを年一回ずつやってきたので、こちらの先生たちのサブのボランティア、現地のボランティアもそういったかたちで多様性が確保されてきています。あまり参考になりませんが、それが私たちの実情です。

（中山委員長）

ありがとうございました。実際の活動事例から、ボランティアの発展に必要なことを助言いただいたのではないかと思います。その他いかがでしょうか。

今話題になっていたボランティアに関して、津島市の地域学校協働活動、コミュニティースクールと関わりがあり、そこの校長と知り合いで話を伺う機会がよくあります。その活動を１０年前に始めた時、ボランティアの募集で電車の吊り広告が意外と効果があったと聞きました。これはボランティア活動の本質をついているもので、ボランティアは通常の地域活動とは若干性格が異なるところがあり、住んでいる地域に限らず、自分の関心がある課題が存在しているところには、地域を問わず手伝いに行き、関わっていくという面があると言われます。柔軟な方法を考えることで、ボランティア活動の維持が可能ではないかと思ったことと、今、学校のカリキュラムが過密になり、どこまでできるかわからないのですが、大学や高校など活動の中に、ボランティア活動の単位化が言われてきているようです。近隣だと愛知工科大学、愛知大学、豊橋創造大学あたりになるかと思いますが、そういったところと連携し、単位化によるボランティア活動をやることはできないかと思いました。大学生の中にも自分から動き、地域課題のために頑張る人も一定数いることは間違いないことで、私の勤務校でもできればいいのではと思います。それでは、その他に基本方針３、４に関して、ご意見、ご質問があればお願いしたいが、予定より時間が押しているので、なければ次に進みたいのですがよろしいでしょうか。

それでは、第５章以降の説明を事務局よりお願いいたします。

＜資料に基づき事務局説明＞

（中山委員長）

ありがとうございました。最後、説明いただいた箇所についてご意見、ご質問あればよろしくお願いいたします。

（委員）

例えば今、健康経営ということを推進しております。この計画が５年計画とすると、これに沿ったものにしていくということになると思いますが、従業員や企業と書いてあり、例えば働く人の健康を増進するレクリエーションやプログラムなど、キーワードとして「働く人」と入れていただくと、会議所としても今後の計画に関わり合いができるかと思っています。今後定年も、６５歳、７０歳とあがっていくので、働く人の健康増進というようなかたちの生涯学習であれば、会議所としての立ち位置も出てくるかと思います。

また、現在、蒲郡の産業を知る小さい子が少なく、「三河木綿を知っているか」と聞くと「知らない」という子が多い。現在小学校の子が１０年たつと働く年齢になります。今、企業の課題は従業員の確保であり、そういう意味で小学校向けに企業、地元産業の学習ができるような内容が入ればいいかなと思いました。

（中山委員長）

ありがとうございます。働く人の健康増進と地元産業についての学習が計画に入ればいいのではないかというご意見です。私も４０代後半で健康問題は非常に気になるところで、２，３年前くらいから、ぽつぽつと悪いところが出てきているので、そういう事業があれば参加したいと思いました。事務局から回答などありますか。

（事務局）

ありがとうございます。私は実際に商工にいたことがあり、三河木綿の企画で社長さん達に相談し、蒲郡の染織の見学ツアーなどできないかとお願いしたことがあります。そういったことも生涯学習と捉えて、計画の中だと４６ページ地域の魅力を発見する機会の提供として、内容としてはざっくり大きな書き方をしています。地域の魅力の再発見により、よりよいまちづくりのきっかけに向けてというところになりますが、一つの産業を言葉として入れると、それにとらわれてしまうという部分もあるかもしれませんが、例えば、絵として三河木綿に触れている小学生の絵など、視覚的にわかりやすいもの、一例を言葉として入れてもいいのかなと思っています。このままだと具体的なイメージがわかないのではと思っているので、より蒲郡の産業や三河木綿、そういったものを知ることも生涯学習の一つであるとわかるような計画、全般的に言えることですが、そういった計画を作っていけたらと思います。

（委員）

こちらが企画すると大人向けになってしまうので、そこは行政というか、地場産業の推進、地域の子どもへの知識増進など、そういうことができたらよいと思います。

（中山委員長）

働く人の健康増進には回答はありませんか。

（事務局）

いろいろな角度から生涯学習を捉えるということで、働く人の健康増進、働きやすい環境を作るような講座も大事だと思いますので、そういったニュアンスのものを入れられたらと思います。

（中山委員長）

ありがとうございます。学校との連動で地域と学ぶ学習が何かできればいいですね。地域学校協働学習とかなり関連するはずです。

（委員）

先日、地場産業の蒲郡ロープを調べに図書館へ行きました。図書館から参考になる本を５、６冊出していただきましたが書かれている内容が非常に少なく、地場産業なのにそれに関する本がないのかと思いました。小学生用に書かれているもののほかに、蒲郡市の歴史というところで書かれていただけでした。

あと、資料編にある各課の取り組みを見ると、他課で実施している講座で載っていない講座もあります。生涯学習的なものだけではなく、ボランティア養成講座も載せてほしいと思いました。もう一つ思うのは、生命の海科学館ではワークショップで何かをつくりながら学ぶことができるのですが、学びだけをする場所がありません。市民が講師となり持っているスキルを活かす講座を開催する場所がなく、市民会館では料金を取ると収益が発生するために、借りる金額が変わります。そうではなく、市民が講師となって教えるのであれば、金額について配慮してほしいと思います。また中央公民館という構想があるので、そこなら市民が教えるのはいいのではないかと思います。生命の海科学館のようなイベントをつくり、スキルのある市民が無料で活用でき、ボランティアで参加する人達も資料代以外は無料で学べる場があればいいかなと思います。また、学びたいと思っても小さな子どもがいるなどの理由で学ぶ時間がない人のためにＳＮＳ、ＺＯＯＭを使った講座を実施するなど、蒲郡市として学びの場を充実していってほしいと思います。

（中山委員長）

ありがとうございます。１つ目は地域の地場産業に対する学習課題をやっていただいたときの感想で、２つ目はボランティア養成講座の洗い出しで、３つ目は市民講師による学習を受講しやすいかたちとして、費用面での受講のしやすさ。あとはオンライン活用による受講希望者がいるのではないかという４点です。

事務局として、現時点で回答できることはありますか。

（事務局）

検討していきたいと思っております。

（委員）

例えば、中学校だと木工室、家庭科室、技術室、理科室といった部屋を活かした講座ができるのではないかと思いました。地域の方がそこで学ぶことにより、例えば、学校の備品状況を見て、地域で資源回収をするなど備品の費用を補助しよう、市に陳情しようなど、となるかもしれません。小学校ならＰＴＡも実施していると思いますが、親子で一緒に参加することもで

きます。子供がいない人にも利用できるのでいいのではと、前から思っていました。
（委員）
　作業的なものではなく、コミュニケーションという文化的な講座のことです。名古屋のほうでコミュニケーションに関するいろいろな講座を実施していますが、そういうスキルを持った市民がその場所で実施できる講座で、教室的なところや市民会館など学べる場所が欲しいと思います。
（中山委員長）
　ありがとうございます。そのあたりは中央公民館の構想を具体化していくときに、検討課題になるのではと思います。事務局としても検討課題に加えていただけたらと思います。相当時間が押してきていますので、計画の素案についてのご意見はここまでとしてよろしいでしょうか。次第２に関してはこれで終了とさせていただきます。
　では、次第３「生涯学習推進計画２０２２指標・評価基準について」事務局から説明をお願いします。
（事務局）
　すみません。先ほどの働く人の健康増進の講座について、「健康づくりに関する学びの充実」のところに、働く人に特化して、業務の多様化、身体的な健康やメンタルの部分など、何か具体的なものを入れられればと考えております。
　それでは次第３の指標・評価基準について説明をさせていただきます。

（３）蒲郡市生涯学習推進計画２０２２　指標・評価基準について

＜資料に基づき事務局説明＞

（中山委員長）
　ありがとうございます。今回の素案を見ると、施策の展開でそれぞれの項目に、成果目標と行動目標が洗い出してあるという感じです。これに関わって、こういうものがあるといい意見で、何かありますか。
　ないようですので、私から少しお話しさせていただきます。私はある町で、教育委員会点検評価委員を委嘱で５、６年やっています。具体的には教育振興基本計画が計画通りに進んでいるかをチェックし、毎年報告書を書いています。今、行政評価がとても言われていて、どこの世界でも数値目標で計画を管理することになっており、教育委員会も同様です。教育振興基本計画を評価する立場から言うと、こういうものはエビデンスが大事と言われますが、数値による評価をやりすぎると本末転倒、自分たちの首を絞めることになりかねないと思っています。一つだけ例をあげると、「読書の好きな子どもの割合を８０％に引き上げる」という成果指標があったとしますが、読書の好きな子どもの割合は、図書館が頑張れば上がるとは限らないです。図書館が一生懸命やっても年度によっては下がることも起こり、評価する側として非常に評価しづらいということが起こります。そういう点をふまえて、指標の設定を慎重に検討したほうがよいと思います。例えば、生涯学習活動に満足している割合が出ていますが、データが

取りやすくても、数値が上がるかは偶然的な要素に左右されることが多く、生涯学習課が頑張ってもなかなか上がっていないということにもなりかねないと思います。もう一つ、原則的な議論の話として、社会教育というのは社会教育法という法律があり、そこで生涯学習についての行政の役割は、法律では住民の自発的な学びが進むよう環境を整えていく、醸成することを言っています。要は自発的な学びが進むよう、例えば施設の整備、集会、事業の展開など、前段階の環境づくりであり、行政はそこまではできてもそれ以降の学びの成果については、受け取った市民が自主的に考えていけるかということで、踏み込んだ成果目標を立てないほうがいいのではと思います。これは行政の在り方からすると、ＮＧな発言になるかもしれません。

あともう１点ですが、社会教育研究の世界では、今後、計画の進捗状況などを議論するうえで行政評価のほかにもう一つ必要なこととして、住民が学びを提供され、実際に学んだことによりどう感じたか、あるいは、その後のサークル活動や地域づくり活動の取り組みなどの振り返りも大事だと言われています。数値目標の管理と同時に、生涯学習事業の振り返りのアンケートや振り返りの会で出た意見などを会議で共有し、職員と住民等で意見交換していくことを重視していくことが大事です。ですが、住民の学びがどの程度深まったかは、実際に学びに関わる職員、住民の感覚であり、数値では測りようがないため、質的な部分の話し合いを大事にすることも、今後計画を管理していく視点として取り入れるといいのではと思っています。以上です。

その他に何かありますか。

（委員）

指標案の公民館ホームページのアクセス数は、アクセスを何回したかを示したいのですか。

（事務局）

こちらも目標として検討課題になっているところです。公民館のホームページのアクセス数が書かれるところは、生涯学習課が作成する公民館全体のトップページで、アクセスした人が何を目的にしているのかはわからないため、情報提供で指標として出すのは検討中です。

（委員）

わかりました。ありがとうございます。

（中山委員長）

その他いかがでしょうか。

（委員）

首をかしげたくなるような項目もあるが、まず基準値をどうやって求めるのか、増えることでよかったと言えるのかということと、数値化が必要なのはわかりますが全体的にかなり無理があると思います。

（委員）

生涯学習講座の実施回数とありますが、指標としては回数がよいのか、参加者数がよいのか、ということもあります。私は延べ人数が知りたいと思いました。

（中山委員長）

他にありますでしょうか。もしなければ、事務局から回答はありますか。

（事務局）

まず、委員からのご意見で基準値の測り方は私どもも悩んでおり、このコロナで２年間はほぼ基準値がゼロのスタートになるため、コロナ前の数値かゼロか、どちらにしても欄外に注釈などが必要だと思っています。目標値を定めるのも難しく、ハードルを下げるのか、高い目標で突き進むのか、内容、目標値ともに検討が必要と思っています。

また、講座の実施回数より参加人数ということで、参加人数を計る上で人の関わりの程度をみるには有効ですが、募集に対して思った以上に人数が集まらず、実施回数でも同様であり、どちらをとるかも悩ましいところです。そういったことも踏まえ検討していきたいと思います。現時点で「こうします」とはっきりとした回答ができず、申し訳ありません。

（中山委員長）

ありがとうございます。確かに難しい問題で、数値が上がればいいのか、また、人数を目標に設定した場合、ひどいところだと有名人を招き、それを盾にしてしまうこともあります。そこが評価の難しいところです。その点を踏まえ慎重に検討されるのがよいと思います。それでは時間が押しているので、次第３についてはよろしいでしょうか。

そうしましたら、「今後の策定の流れ」について、事務局から説明をお願いします。

（４）今後の策定の流れ

＜資料に基づき事務局説明＞

（事務局）

今後の策定の流れにつきましては、以上です。

（中山委員長）

ありがとうございました。ご意見ご質問はいかがでしょうか。事前の事務局と打ち合わせでは、発言がない方には最後に一言ずつコメントをいただくことになったのですが、事務局、委員の皆様、大丈夫でしょうか。

（事務局）

最後に、委員に確認したいことがあります。計画の中で蒲郡らしさを入れていきたいと事務局で考えています。蒲郡と言えば観光ではないかと考えています。そうすると商工会議所にも関係すると思うのですが、例えば、蒲郡のことを学んだ人が観光とタイアップして、観光コンシェルジュというような蒲郡を観光につなげていく取り組みができればと思っています。若者議会も皆でいろいろなことを調べ、学び、蒲郡に活かす取り組みをしていると思いますが、生涯学習課でも計画に入れていけたらと考えています。例えば、蒲郡市文化協会の作品を観光客が集まる場所で展示する、蒲郡市吹奏楽団が温泉に出向いて演奏するというように、発表の場として観光地を活用するなど、そういうことが実際に可能かどうかについて、お伺いさせていただきたいです。

（中山委員長）

ありがとうございます。委員に答えていただいた後に、ご発言がなかった方にコメントをいただこうかと思います。

（委員）

１０月２４日に「ごりやく市」さんとのコラボにより、６５周年記念事業として、若者議員が考えたブースを５店舗出店しました。先ほど、若い子たちの活躍の場がなくなるという話がありましたが、考えている若者もものすごくいます。ただそういう場がないため、生涯学習計画の中で活躍の場をつくってあげてほしいと思います。今後は次年度の話も進んでいて、若者議会に関しても２０２２年度も行うつもりですが、青年会議所が本年のようにバックアップしていくか、または蒲郡市からモデルケースとしてやらせてほしいとお声をいただいているので、その中で生涯学習課とのタイアップができるのではないかと思います。若者議員としても、学んだことをインプットからアウトプットと、自らの足で歩いていっていただければ、それが生涯学習につながると思います。先日も東三河「東港地区まちづくりビジョン」でお話させていただきましたが、若い力を日に当たるところへ引っ張っていくことが、我々のするべきことなのではないかと、我々の力を遠慮なく使っていただければと思います。

（中山委員長）

事務局はよろしいでしょうか。ありがとうございます。そうしましたら、今日現時点でご発言いただいていない方から、一言ずつコメントをお願いします。

（委員）

皆様同じだと思いますが、今一番の課題は高齢化社会で会員が減少しているということです。個人的な考えですが、商工会議所に協力していただき、定年の方に向けて文化協会の伝統文化に関する内容のＰＲや勧誘をしていただければと思っています。生涯学習課に要望ですが、講座などする際は文化協会にも目的があるので、こちらとコミュニケーションをとりながらやっていただきたいです。また、今月の広報に「ちぎり絵」教室の案内が二つ掲載され、文化協会と片方の教室との受講料の金額にギャップがあり、それはどうかと思いました。生涯学習課が実施しているので注意が必要だと思います。２番の博物館のほうは技術関係のもので意外と発表の場がなく、博物館にあるのはアートアンドミュージアムです。何か技術を取り入れるなどしないと、博物館として少しもったいない、これは個人的な意見です。年代別にどのようにやっていくのか、文化が多様化しているので難しいところがあると思っています。

（中山委員長）

ありがとうございます。計画づくりにも関わるご意見だと思いますし、今後の具体的な生涯学習活動の推進にも関わるような課題を出していただきました。ありがとうございます。

（委員）

私は２０年前、市の生涯学習課で行われたボランティア養成講座で仲間に入り、活動を続けております。当初はいろいろな託児付きの講座やインターネットセミナーなど、子ども連れの方が参加できる講座をされていましたが、市が託児付きの講座を実施しなくなり、健康推進課の集団検診の時に細々とやっている状況です。活動がないと会員も離れ、多い時は３０人ほどでしたが今は数人という厳しい状態にあります。託児グループがほしいとつくったものなので、養成講座をバックアップしていただき、その後託児付きの講座を実施していただけたら、ボランティア仲間も増えるのではと思います。

（中山委員長）

ありがとうございます。子育てに関わる学びの充実に向けて、課題をあげていただいたと思います。このあたりもご検討いただければと思います。それでは、次第４に関してはよろしいでようか。

では、次第５その他について連絡事項を事務局からお願いします。

（５）今後の策定の流れ

（事務局）

委員長ありがとうございました。先ほどの説明にもありましたが、次回１２月上旬頃が４回目の策定委員会となります。また、中山委員長と日程を調整させていただきますので、よろしくお願いいたします。

（事務局）

では、三浦課長より一言申し上げます。

（三浦課長）

皆様長い間、忌憚のないご意見をいただき、ありがとうございました。資料の中で、まだまだ作業が進んでいない部分を感じられたかと思いますが、精一杯頑張って、内容や最終的な修正を、皆様にご確認いただかなくても大丈夫なように仕上げたいと思っておりますので、最後までご付き合いいただきたいと思います。今日は本当にありがとうございました。

（事務局）

ありがとうございました。